第８回 雨水ネットワーク会議全国大会2015 in 愛知

雨は、恵と 緑と 情を はぐくむ

～ものづくり愛知の忘れ物　雨水　里山　環（わ）の心～

報告書

2015. 8. 21 (fri)　22 (sat)　23 (sun)

愛・地球博記念公園（モリコロパーク）　地球市民交流センター

愛知県長久手市茨ケ廻間乙1533ー1

Rainwater Network JAPAN

雨恵緑情

雨は、恵と 緑と 情を はぐくむ

～ものづくり愛知の忘れ物　雨水　里山　環（わ）の心～

【開催趣旨】

『雨』と聞くと梅雨の不快感や災害をもたらすものと考えてしまいがち･･･しかし、身の回りの生命は雨によって育くまれ、私たちの暮らしは今も昔もその恵みによって成り立っています。

気候温暖で雨にも恵まれた愛知では、雨水を上手に受け入れ、その資源を巧みに活かす文化が育くまれてきました。

また、この地域の『ものづくり産業』は、雨水や里山といった穏やかで豊かな自然資源に支えられ発展してきました。一方で、これら産業の発展やそれにともなう生活スタイルの変化は、雨水や里山の恩恵（恵み）をいつしか忘れさせ、生命の基礎となる生活環境の悪化も招いています。

記録的な豪雨により大きな被害をもたらした「東海豪雨」から 15 年、“自然の叡智” をテーマとした「愛・地球博」から 10 年となる今年、「雨水」の今の価値を再発見するとともに、近代技術を積み上げたグレーインフラ（道路・上下水道など）と、地形や生態系を活かしたグリーンインフラ（里山・河川など）を巧みに組み合わせ、“自然の叡智” を活かした雨水活用を考えます。

大会プログラム

8/21（金）「雨水セミナー＆行政部会・企業部設立会議」

15：00

ご挨拶

15：05

雨水セミナー

「『雨水の利用の推進に関する法律』について」
国土交通省 水管理・国土保全局 水資源部 水資源政策課

「雨水市民の活動」
NPO 法人 雨水市民の会　笹川みちる

「雨水ネットワークの展開」
雨水ネットワーク九州　角銅久美子

17：00

会　議

行政部会設立会議・企業部会設立会議

18：00

8/22（土）「雨の環（わ）シンポジウム」

10：00

開会ご挨拶

大会会長　延藤 安弘

10：10

講　演

「雨水の恵み、森の恵みと私たちの生活」
蔵治 光一郎（東京大学 大学院農学生命科学研究科 准教授
・附属演習林 生態水文学研究所 所長）

「雨庭のすすめ ～気候変動と生物多様性の損失への賢い対応」
森本 幸裕（京都学園大学 バイオ環境学部教授・京都大学名誉教授）

11：20

休　憩

11：30

幻　燈

「雨は物語をつれてくる」
延藤 安弘（NPO 法人 まちの縁側育くみ隊 代表理事）

11：45

鼎　談

「雨　恵　緑　情」
蔵治 光一郎・森本 幸裕・延藤 安弘

12：30

昼　食・休　憩

13：30

【屋内広場
展示・イベント】

雨水活用製品・環境活動展示

「雨の環（わ）ミーティング」

【屋内広場 展示・イベント】

雨水活用製品・環境活動展示

雨を考える体験イベント

13：30

雨の環ミーティング　その①　「雨の環ゼミ」

雨の環ゼミ①　　＜会場：体験学習室②＞
「愛・地球博を振り返って」　　神谷　博

雨の環ゼミ②　　＜会場：体験学習室③＞
「都市の緑の本当の価値 －ドイツ 10 万人の都市から」　　高松 平藏

雨の環ゼミ③　　会場：＜あいちサトラボ＞
「里山の恵みと食」　　武田 美恵・眞弓浩二ほか

＊雨の環ゼミ①～③は、それぞれの会場で同時開催

16：15

休憩・会場移動

16：30

雨の環ミーティング　その②　「みんなで考える」

参加者みんなで考える　「雨　恵　緑　情」　～大会宣言に向けて～

17：30

閉会挨拶ほか

17：50

「雨の環（わ）交流会」会費制（会費 4,000 円）

18：00 ～ 20：00　【会場：体験学習室】

郷土料理や地元食材を囲んで、みんなで雨を語り合う。

8/23（日）「雨の水みちツアー」

【屋内広場 展示・イベント】

雨水活用製品・環境活動展示

雨を考える体験イベント

10：00

◇長久手里山湧水めぐり

参加費：2,000円（バス移動と徒歩）
定員：15 名

地球市民交流センター
↓
長久手市熊張地区の沢・棚田
↓
掘り抜き井戸の自噴する湧水を利用して暮らす家々を巡る
↓
地球市民交流センター

◇水源の森探索

参加費：1,000円（園内ツアー）
定員：15 名

地球市民交流センター
↓
林床花園
↓
親林楽園
↓
水源の森
↓
もりの学舎

◇事前申込制　（申込先着順、定員に達し次第締切）

12：00

全プログラム終了

16：00

目　次

実行委員会のあゆみ……5
大会を終えて……6
行政部会・企業部会
「行政部会」設立会議報告……9
「企業部会」設立会議報告……10
鼎談
鼎談「雨 恵 緑 情」……12
雨の環ミーティング
雨の環ゼミ①「愛・地球博を振り返って」……15
雨の環ゼミ②「都市の緑の本当の価値 ―ドイツ10万人の都市から―」……17
雨の環ゼミ③「里山の恵みと食」……19
ありきたりをこえて雨水社会づくり［大会宣言］……21
雨の水みちツアー
長久手里山湧水めぐり……25
水源の森探索……26
展示ほか
展示（ブース展示・ポスター展示）について……28
催事空間への想い……29
大会インプレッション……30
参加者データ……32
広告……34
実行委員一覧……47

実行委員会のあゆみ

日付		場所	項目	内容
2014	8月16日	木文化研究所	ＲＮＪ全国大会開催のお誘い	雨水ネットワーク会議世話人からの説明と提案
	9月 8日	木文化研究所	全国大会呼びかけ会開催	世話人からの大会説明と愛知での実施の呼びかけ
	9月 9日	愛知県庁	愛知県都市緑化フェア と連携等協議	フェアの開催日前（８月下旬）の開催検討
	10月20日	木文化研究所	第１回実行委員会準備会開催	大会概要（日時・場所・テーマ等）の確認と検討
	11月30日	木文化研究所	プレイベントセミナー 「里山・水源・流域圏」開催	雑木林研究会と連携事業 神谷、西尾、浜口講師＆活動発表
	12月 9日	名城大学 名駅サテライト	第２回実行委員会準備会開催	会場の概要説明（地球市民交流センター、水源の森等） テーマの検討
2015	1月13日	名城大学 名駅サテライト	第３回実行委員会準備会開催	実行委員会設立の準備 会議の方針＆主要なプログラム検討等
	2月15日	木文化研究所	プレイベントセミナー 「森の水循環と里山の生物多様性保全活動」開催	雑木林研究会と連携事業 蔵治講演、滝田・滝川活動報告
	3月 1日	地球市民 交流センター	第１回実行委員会開催	現地確認、実行委員会の設立、規約・役員の決定、 スケジュールの検討
	3月31日	名城大学 名駅サテライト	第２回実行委員会開催	大会テーマ、開催趣旨の決定、企画内容の検討
	4月11 ～13日	東京・神奈川	プレイベント 「武蔵野水みちツアー」開催	雑木林研究会連携事業、神谷講師・案内
	4月27日	名城大学 名駅サテライト	第３回実行委員会開催	大まかなプログラムの内容 とスケジュールの検討・広報・渉外
	5月25日	名城大学 名駅サテライト	第４回実行委員会開催	プログラム検討、協賛・出展等の要項、予算案
	6月10日	日本特殊陶業 市民会館	第５回実行委員会開催	後援依頼の状況確認、広告・協賛募集、 広報用チラシ、Webサイトの検討
	6月11日		事務局会議	講演依頼、展示・広告・協賛募集等
	6月20日	瀬戸 東大演習林	プレイベント 「東大演習林研修会」開催	雑木林研究会連携事業、蔵治講師・案内
	6月22日	名城大学 名駅サテライト	第６回実行委員会開催	企画の概要と進行状況・役割分担の検討、 チラシデザイン検討
	7月 2日		事務局会議	全体スケジュールの確認、予算案の調整
	7月10日	名城大学 名駅サテライト	第７回実行委員会開催	チラシデザイン決定、当日配布の資料集の原稿確認
	7月27日	名城大学 名駅サテライト	第８回実行委員会開催	企画の概要と進行状況・役割分担の確認、 チラシ配布
	8月10日	ウインクあいち	第９回実行委員会開催	当日スケジュール・役割分担表の確認
	8月11日		事務局会議	最終調整、ツアーバス、Tシャツの手配
	8月21～23日	**第8回 雨水ネットワーク会議全国大会2015 in 愛知** 地球市民交流センター	雨は、恵と 緑と 情を はぐくむ ～ものづくり愛知の忘れ物　雨水　里山　環（わ）の心～	
	9月 2日	名城大学 名駅サテライト	第10回実行委員会開催	全国大会の感想・評価、報告書の作成
	10月下旬		第11回実行委員会開催（予定）	これからの課題と方針、実行委員会解散

大会を終えて

副実行委員長　近藤　朗

「雨は、恵と緑と情を育む ～ものづくり愛知の忘れ物 」をテーマとして、「第8回雨水ネットワーク会議全国大会2015 in 愛知」が8月21日から23日にかけて開催されました。会場は、愛知万博跡地の愛・地球博記念公園（モリコロパーク）を舞台に様々な企画を展開し、当県初の開催となる本大会で愛知らしいチャレンジができたのではないかと思います。

実行委員会として心掛けたのは、「雨水」という全ての人々に関わる裾野の広い分野を扱うため、できる限り多様なセクター、世代の人々に関わってもらうこと、そして雨水ネットワークに今まで関わってこられた全国雨水市民の方々と、初めて当大会に接することとなった私たちが融合し新たな化学反応を生み出せるのかということでした。結果として全国から数多くの方々、団体の参加とご協力をいただき、私たち地元も大いなる刺激と感銘を受けました。実行委員会として、今大会に関わっていただいた全ての方に、厚くお礼を申し上げます。

また今回は、都市公園を舞台に展開するという新しい試みとしたため、大会関係者以外にも実に多くの方々の協力に支えられました。愛知県公園緑地課による交流センターツアー、全般的に運営サポートいただいたパークスタッフ、里の恵み「五平餅」づくり体験で協力いただいたサトラボ里山開拓団、森の学舎スタッフ、会場周辺で子供たちのための「水の遊園地」展開されたNPOスポーツサポート協会の方々など、深く感謝いたします。

工業県、農業県として発展してきた地域でもあります。これからの新しい時代に向けて愛知の果たすべき役割は何かを議論しようという思いに至り、「ものづくり愛知の忘れ物」というサブタイトルになりました。これは、市民・行政・企業など全てのセクターへの問いかけでもあります。

雨の環シンポジウム、セミナー等で提示された「都市と森林の問題を繋ぐ」、「グリーンインフラ」、「雨庭」などのキーワードが、その答えとしてとても魅力的な可能性を示してくれました。

■ 大会開催までの道のり

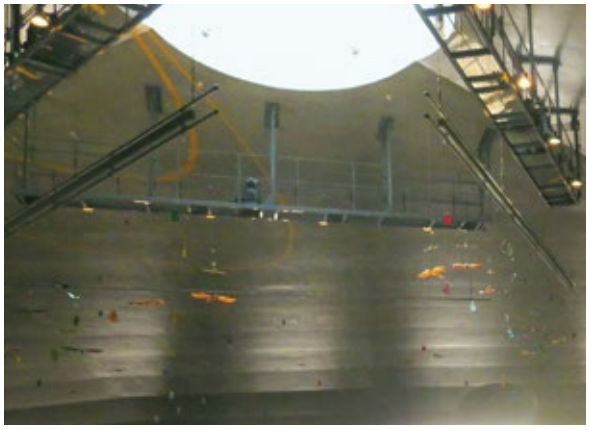
少し内輪の話をさせていただくと（これも成果の一つなのでご容赦）、雨水ネットワークより愛知大会開催の話をいただいたのが、忘れもしない2014年8月16日の事で、第7回福井雨水大会の直前、以後私たち実行委員会の楽しくも中々先の見えない旅が始まりました。準備会4回に加え、神谷博さん、大会基調講演をお願いした蔵治光一郎さんを交えた勉強会（セミナー）、野川（東京）視察などを経て、実行委員会は大会後の総括を含め10回を数えます。地元委員は一人として過去の雨水大会に参加した経験がなく手探りの状態ながら、その中での最も大きな成果は、実に多くの素敵な人達たちの出会いでした。

まずは世話人会の方々と愛知のメンバーが繋がり、当初は私と森事務局長、後に大会長を務めることとなる延藤安弘さんの3人でしたが、徐々に桃太郎方式で仲間を募り、最後に大会本番で全国の雨水市民と繋がっていくという構図は感動的ですらありました。やはり「雨水活用で地球を救う」ためには「人」が鍵なんだと痛感した次第です。

■ 愛知の忘れ物

この3月まで愛・地球博記念公園管理事務所長をさせていただいた私としましても、今回のようにテーマ性を持ったイベントが園内全域を舞台に展開されたことに大きな意義を感じております。

交流センターでは１日目「雨水セミナー・会議」、2日目「雨の環シンポジウム」後、３部会を開催、「万博を振り返る」、高松平藏氏「都市の緑」の他、



園内あいちサトラボでの里山・五平餅づくり体験まで展開。3日目は、長久手市熊張の湧水地帯と、園内南部樹林地・もりの学舎を巡る二つの「雨の水みちツアー」を催行しました。

交流センター屋内広場では大会を通して、「光」と「風」が煌めく魅惑的なアート空間が展開され、その天窓下にはあいちの木「組手什」ステージ。ここで

延藤大会長が、「ありきたりをこえよう」と結んだのです。

その空間を演出した作家達、「雨のステンドグラス」野々山ちさとさん、「風のバードモビール」多治見正勝さん、「書・言葉」名畑勝彦さんによるワークショップも同時に2日間開催。それを支えたのが名古屋コミュニケーションアート専門学校の学生たちであり、ツアー等担当した愛知工業大学武田研究室の学生と共に、彼ら彼女たちの強い責任感と頑張りが、私たちには、今大会での極めて象徴的な出来事だと映りました。作家さんとデザイン系学生の交流も生まれ、雨を楽しむ学びの場ともなったようです。（実際に2日目は雨でしたし。）

雨の環ゼミで、福井の方から過去大会の議論を踏まえて「まず雨水利用の技術構築、法整備が議論され成果をあげた。次はそれを運用するための人材育成が必要なのではないか。」との意見がありました。前回福井大会宣言では、「雨と水の環境教育」、それを継続するための「雨を楽しむ文化復活」、前々回とうほく大会宣言でも「仕組みと人づくり」が謳われており、今回の若者たちの活躍を見ていると、その流れを汲むことが出来たのではないかなと、しみじみ思います。

そうか、「ものづくり愛知の忘れ物」とは「雨を楽しむ人を育てること」だったんだ。

行政部会・企業部会

雨水ネットワーク「行政部会」設立会議報告
「雨水利用自治体担当者連絡会」の新たな展開へ

報告　山田 和伸（墨田区・RNJ 世話人）
屋井 裕幸（雨水貯留浸透技術協会・RNJ 世話人）

はじめに

雨水ネットワーク「行政部会」設立会議は、13 自治体の担当者と国土交通省、雨水貯留浸透技術協会等が参加して開催されました。「行政部会」は、これまでの雨水利用自治体担当者連絡会の加盟自治体以外にも呼びかけ、改めて加盟の確認をとる形で行いましたが、期日が短かったこともあり、総会当日までに加盟の通知があったのは 34 自治体に留まりました。

設立会議はこれまで自治体連絡会の代表幹事を担ってきた墨田区と公益社団法人雨水貯留浸透技術協会の議事進行で始まり、初めに、これまでの自治体担当者連絡会が行ってきた活動の概略と雨水活用推進法が成立したことを踏まえ、今後行政部会として活動を充実するために、

①事務局機能を雨水ネットワークに集約すること

②具体的な活動を展開していくための組織体制づくり　　の必要性ついて説明しました。

その後、各自治体の自己紹介を兼ねて雨水に対する取組みや問題意識を話してもらいました。
表明された課題としては、

①水資源、②流出抑制、③地下水涵養、④防災用水

等々の位置づけの重要度の違いや各種補助金制度の実効性についての成否等、抱えている課題も多様でした。

行政部会の設立について

自治体連絡会の提起で発足した雨水ネットワーク会議ですが、いまでは雨水に関する最新の情報の提供・交流の場として定着し、その運営のための事務局機能・世話人会もあることから、今年の全国大会で「行政部会」「企業部会」の設立が提起された次第です。

今回の設立会議では、議論を促すために図 1 に示す行政部会の設立についてのスライドをたたき台として提示しました。

行政部会の形として、

①事務局機能を雨水ネットワークへ移転

②雨水利用に関する情報プラットフォームを作る

③企業部会等他分野との交流　　等が了承されました。

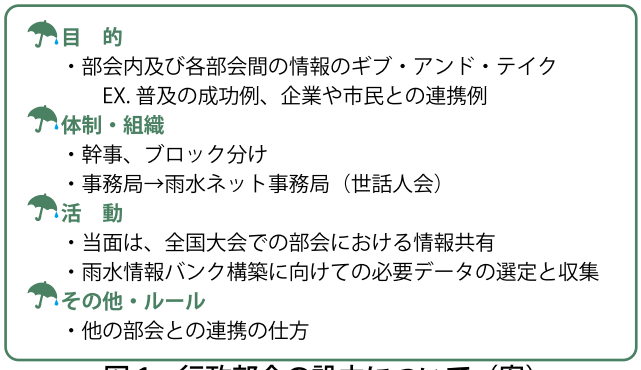


図 1　行政部会の設立について（案）

また、国土交通省からは、雨水利用推進法の基本方針が策定されたことから、モデルケースとして地域の特性を反映した、あるいは既存計画をベースにした市町村計画の策定に一早く手をあげたいと考えている自治体との意見交換の場として行政部会に期待する旨が述べられました。

今後の展開　〈雨水ネットワークへ行政側からの、より積極的な関与〉

設立会議では、まだ組織等が決まらなかったこともあり、今後の行政部会のあり方については、これから詰めていくことになります。まず加盟自治体を増やすこと。その中で幹事自治体の選出等、世話人会でさらに具体化をしていく予定となっています。
雨水に関しては「水資源」としても「流出抑制」の観点からも流域として捉え、そのために結集する必要があります。その意味でもより多くの自治体が行政部会へ参加し、国土交通省、環境省とも連携しながら雨水の活用について実行ある施策を展開することが求められています。

行政部会への自治体からの参加を促すために、雨水ネットワーク会議世話人会に対して、次回開催地の通知を早くして欲しいという要望がありましたので、次回の開催地は東京での開催予定していることを、最後にお伝えてしておきます。

雨水ネットワーク「企業部会」設立会議報告

報告　日高 規晃（あめゆき Cafe・RNJ 世話人）

■ 参加者　　13 企業 22 名（その他 NPO の方等が傍聴）
■ 司会進行　玉田敦夫（タキロン）・日高規晃

企業部会設立の目的および今後の展開について活発な意見交換を行いました。
参加企業の業種はゼネコンをはじめ、雨水貯留槽や雨どいのメーカー、エクステリア商社など雨水貯留や浸透製品に関連する幅広い業種の方が参加されました。
また傍聴頂いた市民団体の方からも、エンドユーザー目線で貴重なご意見をいただきました。以下に議事内容を箇条書きにします。

【目的・課題】
・雨水活用に関する情報や技術の共有、産官学民協働のための交流である。
・発展途上の雨水関連分野の市場をどのように拡大していくか。
・自治体や民間に対してどのようにアプローチして雨水活用の認知度を高めていくか。

【市場を拡大するには】
・まずは実際の市場規模を把握するために参加企業の関連製品の販売実績を集計できないか？
・雨水活用のエンドユーザーに近い業種（トイレメーカーや工務店、造園業者など）の会員を広めることで、より雨水ネットワークを深めることができるのでは。

【技術交流】
・雨水貯留施設の施工業者の育成や、雨水製品データベース化（雨水協会発行の製品便覧の改訂）、など参加企業間で技術的交流を持つことができないか。
・民間団体との交流活動によりエンドユーザーからの生の声を収集し技術開発に活かす事ができる。

【産官学民協働との協働】
・行政・個人・企業をつなぐ架け橋的存在「雨水コーディネーター」の育成が今後の市場の活性に必要。
・当会が窓口になることで行政への働きかけがスムーズになる。

【今後の活動について】
・最低、年に一度は企業部会を開催し、情報交換・共有を行う。
・グループウェア等を活用して常時交流情報交換できるスペースを検討する。

行政部会設立会議の様子

企業部会設立会議の様子

鼎　談

鼎談「雨 恵 緑 情」

蔵治 光一郎（東京大学大学院農学生命科学研究科准教授、付属演習林生態水文学研究所長）
森本 幸裕　（京都学園大学バイオ環境学部教授、京都大学名誉教授）
延藤 安弘　（NPO 法人まちの縁側育くみ隊　代表理事）

【延藤】私から話を切り出しさせていただきます。日本の森林問題は木材を使わなくなった都市の問題でもあり、私も関わる名古屋長者町では間伐材を使った木製歩道の社会実験を行うなど、様々な「都市の木質化」を進めるプロジェクトを都心で行っています。雨水など水循環もそうですが、森林の問題と都市の問題はつながっていて同時に解決していく必要があると今日の講演を聞いて感じました。

【蔵治】木の利用促進にしても教育が重要と思います。東大の学生に聞くと木造家屋に住んだことがない学生が意外に多い、両親の実家を含めても木造を知らないという。それが日本の実態で、このままでは木を使う文化自体が消えてしまいそう。森林の過少利用問題にしても、子どもの教育が重要だと思う。大阪府の森林環境税導入の議論でも出ているが、都市のヒートアイランド対策で屋上や壁面の緑化推進だけでなく、都市での木材利用促進も必要性が議論されている。水文学者として雨の中に現場に出るのだが、雨の環境はとても神秘的でワクワクする。もっと積極的に雨を感じる体験をすること、「雨の楽しみ」は子どもも大人にとっても生活の質の向上につながると思う。

【森本】生物多様性と気候変動への対策として「雨庭」を提唱しているのだが、子どもの一番身近な自然環境としても重要な要素になります。子どもの注意欠陥・多動性障害が社会問題にもなっているが、自然に触れることがそのケアとして有効と証明されている。また、幼少期の自然体験が豊富な子どもほど、「道徳観・正義感」が身についていることが文部科学省の研究でも明らかになっている。木育や食育を含めた総合的な自然体験を身近な雨庭等で進めるべきです。

【延藤】森本先生の「雨庭」がすごいのは、グリーンインフラという理念や概念だけでなく、具体的で身近な手法を提示して実践されていることで、本当に都市を変えていく可能性があると感じました。雨水は生き物の命の循環ということを気づかせてくれます。雨庭のように「雨水を生かす都市」こそが、そこに住む大人や子どもの意識、倫理観・正義感を変えて、都市の木材活用など大きな自然環境を育むことにつながっていく可能性を感じました。その意味で、雨の日こそ外で遊ぶような子ども、つまり「雨ガキ」を積極的に育てようというのも面白いですね。

【蔵治】瀬戸の演習林では小中学生の視察を受け入れているが、実は東京都や三重県など他県が多く、地元愛知県内からの視察がほとんどない。理由は分からないが、遠くの自然でなく自分の生活に直結する地元の自然を学ぶことが最も重要なことだと思います。愛知万博で自然の叡智をテーマにしたが 10 周年を迎えて本当に継承されているのか心配に思う。この地域は、エネルギーのために森林をほとんどハゲ山にした後に、ものすごい植林をして森林を短期間に回復させた。また、水不足を解決するために愛知用水、明治用水、長良川河口堰と大型公共事業を成し遂げた。自然を相手にすさまじい努力をしてきた地域だと思う。しかし、そうした努力と成果を今はすっかり忘れてしまっているように見える。植林した森は放置され、大切なはずの雨水を循環させていない。

一方、ものづくり産業は輸入資源ばかりを使い、身近な自然資源と切り離されたところで発展しているようなアンバランスな状況があり、自然と産業基盤の両面の維持管理コストを含め、次世代に大きなツケを回しているのではないかと懸念しています。水資源をはじめ、木材資源やエネルギー資源、食料自給や防災にしても、もっと身近な環境でセイフティーネットをつくり、いざという時に「自分達の身は自分達で守る」マイクロインフラのような仕組みを内包しておかないと、とても脆弱なシステムの上に成り立っているようにも見えます。

進行　神谷　博（雨水ネットワーク会議世話人）
記録　藤森 幹人（実行委員）

【森本】マイクロインフラとしての雨庭がいかに有効か示す例として、大阪のパナソニックのお膝元の大阪守口市は寝屋川の氾濫原で、もともと湿地だったところを埋め立てて工場や団地ができた。今でも大雨時にはよく浸水するので、小学校跡地に巨大な貯留槽を作ったりする。もしも、みんなで小さな雨庭をたくさんつくったらどれだけ効果があるか試算したことがあり、面的に普及することでかなり効果が期待できることがわかった。

【神谷】ここで会場からご質問ご意見を。

【会場から】雨に濡れると模様が浮き出るレインコートなど、様々な生活の場面でもっと雨を楽しむようになったらいいと思う。

【蔵治】小中学校の野外授業では雨が降ったときの対策が先生方の悩みのようだが、発想を転換して、雨が降ったときにしかできないプログラムを考えておけば、有意義な授業が展開できる。水文学者として協力できるアイデアはいくらでもあります。

あと、今日最後に伝えたいことは、一人ひとりや市民グループの小さな努力やアクションでは大勢は何も変わらないと諦めてしまっては、私たちの将来は巨大なシステムに委ねるだけで何も変わらない。逆に、本当に世の中を変えることは小さなアクションから始まっていくものだと思う。例えば、皆さんの身近な地域で雨庭をつくり、この大会で効果をアピールするような小さなアクションが、社会を変える大きな力につながると思う。

【森本】こうした取組みを広めるには、みんながやる気になるインセンティブが必要になる。森林環境税はやや抽象的なので、もっと具体的な効果が見える方法が必要になります。例えば、雨庭を作ったらどれだけ雨水が浸透し、下水道処理料金がいくら節約できた、というような身近な効果とやる気を生み出す仕組みをつくっていくことが重要だと思う。行政の方に是非お願いしたい。

【会場から】下水道局に勤めている。今は上水道の使用量に応じた下水道処理費の課金制度なので雨水処理は課金の対象になっていないが、これから考えていく必要があると思った。

【会場から】実際に雨水排出ゼロを実践している住宅もある。下水道料金が下がれば、やる気を出す市民も多くなると思う。

【延藤】本大会シンボルの４つの漢字になぞらえてシンポジウムの最後のまとめを行って今後に備えていきたいと思います。

「雨」: 雨水を生かすには、森と街の同時再生を目指す“里まち”づくりを進めよう

「恵」: 恵を生かす戦いは、雨を楽しむ文化を育むことである。

「緑」: 緑と水と人が輝く、柳の風型グリーンインフラを小さな地域から実践して拡げていこう。

「情」: 情（ワクワクするような）を育むことが、新しい理を創造する。

【神谷】今回の４つの漢字は、実行委員会でも何度も話し合って決めました。「楽しい」、「美しい」という漢字も候補になり、そういったたくさんの思いも含めて、延藤先生がまとめてくださいました。３人の先生、会場の皆さんありがとうございました。

雨の環ミーティング

雨の環ゼミ①
「愛・地球博を振り返って」

神谷　博（水みちデザイナー）

趣旨

愛知万博から10年経ったこの年。あの時はどうだった、何をしていた？　熱く語り合った日々を懐かしみつつ、そういえば忘れていた大事なことがあったような…。雨水国際会議もやったのですよね。今も東京オリンピックで浮かれている日本（東京だけ？）は環境万博から何を学んで継承できたのか？愛・地球博の遺産はまさに記念公園に遺されているのではないか？　一生懸命守った里山は今どうなっているのか？今、この丘陵地帯の霊山猿投山や里山の生きものたちは何を見つめているのだろうか。いろいろな思いを語る場をつくりましょう。

第1部 万博で私の関わりは

このような想いで開催した「愛・地球博を振り返って」でしたが、参加者は地元ではない方の方が多かったようです。始めに趣旨と流れの説明をした後、第一部として4名の方から話題提供を頂き、「万博と里山・雨水」をテーマに現在に繋がる想いを語り合いました。

①海上の森の議論の経緯：午前の講演を頂いた森本先生は、当時の「開発」と「保護」の議論を振り返り、人口増を前提とした時代の計画から現代の人口減に向かう意味を問い直す必要があると投げかけました。『「里山」という言葉は1988年に守山弘氏によって定義づけられ、既に社会化していた。アセスメントの法制化が行われた時期でもあり、オオタカ問題がその象徴だった。しかし、生態系に対する定量評価は馴染まず、結論が先行していた。デザインや保全措置は地域計画に密接にリンクしている』と語られました。

②森の自然学校：雨水ネットワーク会議世話人の神谷は、万博の際に森の自然学校の小さな施設群の設計を手がけました。敷地はパビリオン群のある中心部から外れたかつての里山の中でした。日本初のインタープリター付自然ガイドを行う環境教育の実践でした。そこでは、施設の設計もプログラムオリエンテッド、つまり形はプログラムから生まれて来るという方法がとられました。「光小屋」「森小屋」「水小屋」をつくり、光と土と水の関係、バイオマスの役割などを示す小さなパビリオンとしました。3つの施設は今も使われており、22日に行われたガイドツアーでも紹介しました。当時のコンセプトと今日のプロもグラムの関係などを語り、今後の運営について触れました。

③雨水国際会議：山本（雨水市民の会）

山本さんは、2000年前後は大規模開発からの転換の時期だったと切り出しました。『名古屋ではゴミ減の議論から藤前干潟埋め立て反対の運動に繋がり、行政と市民の協働のルールが出来上がった。これが愛知万博の運動に繋がった』と語りました。また、『ミレニアム開発目標として水危機への関心が高まり、「雨水利用国際会議」もそうした中、東京で開かれ、万博会場でも同じ会議が開催され、そこで韓国やドイツの雨水規格化やバングラデシュの水危機や墨田区の雨水の取り組みなどが紹介された。10年後の現在、バングラデシュでは雨水利用が進み、日本はドイツに倣った規準づくりが進められているが、まだ自治体レベルの盛り上がりには欠けている。しかし雨水ネットワークの果たす役割は大きくなっている』と分析しました。

④万博会場の造成：近藤（愛知県）

近藤さんは万博の愛知県館の建築発注担当者であり、設計を担当した設計事務所の柳澤さんと一緒に当時を振り返りました。『海上の森の開発回避に至った背景には、15 年前の東海豪雨があり、2000 年頃には藤前干潟の問題もあった。流域としてみると矢作川方式という、水質の濁度処理、監視、連悪会議という仕組みがあった。建築をつくる際にも、水みちを遮らない、大地と繋ぐ屋上緑化などを実践した。成果はセクター超えたつながりをつくれたことで

あり、それこそが今やるべきこと』と結んだ。

第 2 部 その時私は

これを受けて、第二部では、「語り合い『10 年前、あなたはどこで何を』／自分にとっての万博は何だったのか」というテーマで、参加者から適宜一人 5 分程度お話を頂きました。

- 万博展示では、特にバイオラングに関心があった。
- 森の自然学校のコースを歩き、光小屋など興味深かった。
- 瀬戸会場でバンブーシェルターをつくっていた。身近な材料で学生達の手づくり。
- 当時は小学生で、環境会場の背景などを今日初めて知った。
- 「共生」を改めて考えさせられた、リニモからの景観の変化に驚いた。
- 愛知の木で家をつくる活動をしているが、市民や建築家の状況の後退を感じる。
- 当時、森の自然学校では会場設営・管理、矢作川水源の間伐材デザインコンテストでは会場にベンチを提供した。万博は開発のルールをめぐり議論する機会だったはずだが。

  こうした参加した方々の意見を踏まえて、他の地域にいた方々からの意見を出し合った。
- 松山市から来たが、環境配慮の工事の方法を今後に生かしたい。
- 世田谷で湧水やオオタカを守る活動をしているが、外環状道路の地下工事問題などがあり、雨水貯留等、都会でどう環境を守るか。
- 福岡からだが、雨水全国大会がなかったらここには来なかった。50 年後にここがどうなっているかが大事。
- 昨年大会を福井で開いたが、太平洋側からでなく日本海側からの視点が大事と感じた。一般人の関心をどう高めるか。

第 3 部 WS「万博は何を遺したのか、忘れ物は?」

これらの話を受けて、今後、忘れてはいけないことは何か、話し合いました。

始めに、森本氏から『海上の森は守られたのか?「使いながら守る」というスキームが先送りされたのではないか。これからのマネジメントを考えるべきで、皆で勝手に万博を評価して行ったらよい』と問題を提起しました。これを受けて、『ため池を維持しながら、整備・改修した価値はあり、それが今日の状況に繋がっている』『海上の森は県の保有になり、地権者がいなくなってしまった』『祭りなど昔からの文化も自然との関わりの中に位置づけていく必要がある』など、今日の状況について意見が出ました。

これに対して、若い世代や事業者の方々からは、『来年度から行政職員になる予定なので気を引き締めて頑張ります!』『これから勉強していきたい』という意気込みや、『雨水タンクの普及率はまだ5%くらい。一般の人の意識が変わると状況も変わるのでは』『残ったものをどう活かすか、都市との関係が大事』『2011 年以降検索人気度がダウンしており、雨水タンクへの関心が薄くなっているのでは?広げるためのヒントを得たいので参考になった』『雨水と関わり 4 年、普及のためのアプローチ考えたい』『当時は雨水との接点がなかったが、今後に向けて可能性を感じている』などの意見が出ました。最後に実行委員長の森さんは『雨水ネットワーク会議は愛知開催を持ちかけられるまで知らなかった。万博 10 周年、関わることによって、水への関心が薄れているのではないかと感じた。これから何ができるか考えたい。水・緑「グリーンインフラ」、大事な言葉を授かった』と結びました。

愛・地球博から 10 年。引き継いでいくべき大事なこととして「里山は雨の旅の出発点」であることを再確認し、共有することができました。(16:30　終了)

雨の環ゼミ②
「都市の緑の本当の価値 ―ドイツ10万人の都市から―」

講演　高松 平藏（ジャーナリスト）
記録　小池 敦夫（実行委員）

1. 概要

演者はドイツ、エアランゲン市在住のジャーナリストで、日独の生活習慣や価値観、社会システムなどの比較をベースに執筆活動を行っている高松平藏氏である。

この雨の環ゼミは二部構成で進められた。まず、前半は『見つける』と題して、ドイツ エアランゲン市には「どんな緑があるのか？」が紹介され、それを受けて4～5人単位の6グループにわかれて、自分の街の緑を抽出。

そして後半は『価値づける』と題して、「都市における緑の価値」をマトリクスを使って解説。また、グループごとにマトリクスで自分の街の緑を分析し、発表するという形式で進められた。

2. エアランゲン市について

エアランゲン市はドイツ南部バイエルン州にある人口10万人、市域面積76.95㎢、森林率21%、外国人比率13.6%の都市である。1970年代から環境問題に取り組む文化環境都市で、これまでにドイツ環境都市コンテストで「環境首都」に2回選ばれている。

日本と比較して、地方分権が進んでいる点と人口の捉え方が違う点が指摘された。人口規模だけが大きいのが大都市というわけではないという言葉が妙に記憶に残っている。

3. エアランゲンの緑

1）森の緑　―身近な存在―

平地の森が多いこともあって、森があまりにも身近な存在である。森で子供の誕生パーティーをやったり、散歩したり、人々は思い思いに楽しんでいる。標識などのサイン類も充実しており、散策路や自転車道でネットワークされている。森の体験センターなどの施設もあり、環境教育や体験など様々なアクティビティが楽しめる。また、駐留米軍の演習場跡地が自然保護区に設定され、活用されている。

子どもを持つと庭付き一戸建ての志向が強く、庭でバーベキューを楽しんだりする。また、庭が持てないような人も、NPOによる賃貸ガーデンであるクラインガルテンが非常に人気である。野菜を植えたり、花を植えて楽しんでいる。空きがないと、なかなか順番が回ってこないほどである。一カ所あたり年間の賃料（水道代も含む）が16,000円程度。ドイツ国内で百万箇所、46,000ヘクタール。利用者は50万人ほど。環境保全というよりは、都市化に対して生活の質確保（QOL）という観点から広がっていったもの。

3）中心市街地の緑　―街路樹と歩行者道―

ドイツでは中心市街地が城壁で囲まれた街が多く、ここでも歩行者道がしっかりと整備され、街路樹も立派に育っている。

歩行者道のクオリティはお店へのアクセスもあるが、やはり緑が多くベンチがあるなど遊びが欲しいものである。

4）宮殿庭園　―緑の青空公民館―

街のセンター部分に14ヘクタールもの宮殿庭園があり、緑の「青空公民館」と言っていいほど、コンサートや詩の朗読会など様々な使われ方をし、コミュニティ形成の場ともなっている。

5）その他　―コンポストセンター―

バックヤードとしての緑の循環をつくる「堆肥工場」などもある。また、良質な飲料水を確保するための地下水源の森もある。

4. 自分の街の緑抽出

4～5人単位で6グループに分かれ、それぞれの住む街の緑を抽出し、分類整理。その後、各グループから代表者が街の緑の概要を説明。

①墨田区の緑（大名庭園、向島百花園や屋上庭園など）　②河川の周辺(土手)の緑や路地の緑　③武蔵野市の緑（井之頭公園や玉川上水など）　④杜の都仙台（ケヤキ並木など）　⑤横浜の緑（神社の緑、鶴見川の田園風景、谷津の緑など）　⑥名古屋市名東区の緑（身近な緑として公園の緑など）

5. ドイツの都市における緑の価値

1）緑の階層

緑を階層別に整理することの大切さについて触れ、「個人の緑」としての庭、クラインガルテン。「公共の緑」としての森、自然保護区、街路樹や宮殿庭園。そして「緑のインフラ」としてのコンポストセンターや地下水源。

また、街の緑を低下させない仕組みとして、条例で胸高周囲80㎝以上の木を伐ったら伐った分だけ植えなくてはならない。そうやって緑を担保してきた。

2）緑を成り立たせる複合的要素 1

三つある。一つは「法律」で、ドイツ基本法に「自然的生存基盤及び動物の保護」が、州の憲法には「自然美への自由なアクセス保障」がうたわれている。二つ目は「文化政策、環境政策」。三つ目は「都市像」。都市の概念がはっきりしていて、人工空間であるという認識のもと、生活の質確保のため環境整備の必要性と緑の大切さを認識。

3）緑を成り立たせる複合的要素 2

あと三つあげるなら、「愛郷心」。そして「家族観」と「ロマン主義」がある。

4）緑のマトリクスによる価値づけ

社会の枠組みは政治で決まるため、概念化して具体的に価値づけし議論する必要がある。そのため緑の類型と緑の機能（環境、文化、街の雰囲気、コ

ミュニケーション、教育、社会的結合・国際交流、余暇・健康の七つ）をマトリクスで整理してみた。

これに基づき、先ほどグループで抽出・整理したそれぞれの緑をマトリクスで整理し、機能分析を行い、グループごとに発表。

雨の環ゼミ③
「里山の恵みと食」

武田 美恵（愛知工業大学）
眞弓 浩二（雑木林研究会）

「雨の環ゼミ」の「里山の恵みと食」体験は、大会2日目の平成27年8月22日土曜日に開催された。愛・地球博記念公園内「あいちサトラボ」を開催場所とし、プログラムは13：00～受付開始、13：30～地球市民交流センター出発　徒歩移動、13：45～サトラボで活動する里山開拓団による説明と共にため池・棚田・畑を見学、14：15～ラボハウス前広場にて五平餅づくり・食の体験、15：00～ラボハウス内休憩スペースにて里山セミナー（武田美恵・眞弓浩二）、16：00に終了した。

恵みの大地となる前のサトラボの姿
（2010 年 5 月 29 日撮影）

サトラボは、愛知青少年公園、万博跡地という建設の歴史が刻まれた土地であっても、粘り強い開拓精神によって里山生態系を創出することができるという成功例を学ぶことのできる貴重な空間である。本企画は、実践例を見学し、里山の恵みである米と米を育てることへの労力に感謝しつつ、五平餅づくりと食を通して食物の本物の美味しさを学び、しめくくりである里山セミナーを通して雨水と森林が我々の生活になくてはならないものであることへの理解を促すことを目的とした。

一般参加者は１３名と予定定員の３０名には満たなかったが、子供から高齢者の方まで幅広い年齢層が交わり、“楽しく学ぶ”企画としての役割を担ったと言えよう。【武田】

サトラボ見学

ものづくり愛知の忘れ物「雨水・里山・環（わ）の心」を直接体験するプログラムとして企画されたこの「雨の環ゼミ③」は、開拓団の皆さんの汗を感じながら、薪を燃料に羽釜炊きの「あいちのかおり」による本格的な五平餅づくりだ。味は猿投地方のクルミ入り味噌だれ、串は足助の杉板串と地元の里山素材にもこだわった。普段サトラボで活動されている皆さんや武田研究室の学生さんらも一つになり、短時間でありながら「環」を体感する貴重な場となった。　【眞弓】

STAFF

ありきたりをこえて雨水社会づくりへ
―「第 8 回雨水ネットワーク会議全国大会 2015 in 愛知」大会宣言―

大会会長　延藤 安弘

1.「雨師(うし)」たちの気運

わたしたちは雨の恵みを見失って久しい。しかし愛知で2015年夏、雨への愛情にあふれ、雨というゆるぎない友情の絆で結ばれた全国の「雨師(うし)＊」たちは、「雨水社会」を目指して、雨水の池から楽しく泳ぎ出す清々しい場を生み出した。参加者は雨水を科学的実践的にきわめて知的で配慮に富む有能な研究者のレクチャーに耳を傾けた。雨を暮らしと環境に生かす多様な地域的技や術を日常・非日常にわたり、心愉しくすすめている住民の発表に共感した。「雨水の利用の推進に関する法律」（2014年5月施行）のあらましを、国の担当者は語った。天地創造をつなぐ雨の原初の姿への想い、そして雨を好きになる意識の触発をもたらす絵本活用の可能性のプレゼンテーションも行われた。

人間がみずから生みだしたテクノロジーをどうしても制御できなくなっている現代社会にあって、Rainwater Harvesting, 雨を恵みとして活かす、雨水利用のヒューマン・テクノロジーを市民・研究者・行政・NPO・企業等の協働によって創造せんとする「雨師」たちの気運が会場にみなぎった。

「風かおり、緑かがやく、あまみず社会の構築」への気運がどのように盛り上がったのだろうか。そこで本大会全体を通じて、今後につなぐに値する重要な発言内容の要点をまとめて大会宣言としたい。

（＊）川上明日夫：雨師、思潮社、2007年

2. 漢詩四行詩を詠む

本大会は「雨は、恵と緑と情をはぐくむ～ものづくりの愛知の忘れ物 雨水 里山 環（わ）の心～」のタイトルのもとに進められたが、発表と対話全体に見え隠れしたキーワードをアドリブで漢詩四行詩にしたためた。全国の「雨師」たちの想いが、地元住民書家によって生き生きとカタチとして表された。こうした表現は、漢字の同音異義的イメージによる主題への想いをふくらませてくれるとともに、雨のしずくのような自由な書体がそれをいっそう促してくれる。

（名畑雅彦 書）

1→	雨	庭	里	環
2→	水	流	域	寛
3→	機	熟	蓄	浸
4→	野	生	情	想

読み方の順序は、横（左から右へ）、次いで縦（上から下へ、右から左へ）。このレイアウトには雨水社会実現に向かって、「よこ・たて・ななめ」何でもありの発想でいこうという意味がこめられている。

3．10行キーワードの解読

漢詩四行詩を、順番に1行4字づつふくらみのある意訳として日本語におきかえて読み解いてみよう。

（1）雨庭は里環(さとまち)づくり、森と都市の同時再生をめざそう

内外の先進都市で始まっている雨庭（レイン・ガーデン）は、開発で破壊した自然の再生も含む「賢いレジリエンス」であり、里とまちの同時再生をもたらす「里まちづくり」につながる。

（2）流域は水と市民の寛大なタンク

森は巨大な雨水タンクの入り口であり、流域地域会議は市民を広く集めるタンクであり、流域文化の再創造を目指そう。

（3）機が熟した、雨水を浸透させ蓄えよう

地球環境持続のために、雨水を「流す」から「たくわえる」へ。そして浸透＝しみこませるための浸透マス、浸透舗装等の絶好のタイミングがきた。

（4）他者（雨水・自然・人間）への野性の情と想いを

現代は雨水を避ける「マイルド」な暮らし方が定着しているが、子どもが雨水と遊び、大人が雨水を楽しみながら活用する「ワイルド」（野性的）な情と想いを育もう。

（5）理想としての人間・環境が寛(ひろ)やかに浸しあう

愛知万博時にかかげた目標、人間と環境の相互浸透・共生の関係を、さらに時をかけて寛く育んでいこう。

（6）おもい・情を蓄えよう、里域(さとまち)まちづくり

生命を育む里と形を作り使うまちを融合し、森と都市の同時再生地域形成を「里まちづくり」というが、雨水活用はそのことへのおもい・情を高め深め蓄えることになる。

（7）コンクリート・インフラからグリーン・インフラへの流れをつくり、生きる力を熟成させよう

近代・現代が築いたグレイ・インフラに、雨庭のシリーズ等グリーン・インフラを接続し、人間も環境も生きる力を育もう。

(8) エンジョイしよう、雨水を生かす機縁とフィールドを

雨水活用のチャンスと場を楽しみながら、それぞれの地域にあったやり方ですすめよう。

(9) よき環境づくりは、マイルドを超えてワイルドを熟成させよう

人間が環境（雨水）にかかわる野性味を回復・再創造させることが、子どもの自然への感受性、センス・オブ・ワンダーを育むことになる。

(10) 雨流を蓄える行動と想いのライフスタイルを

雨を水資源として活用するには、老若男女が雨に親しむライフスタイルを広め、住民にも研究者にも行政にも「雨師」を育もう。

4. ありきたりをこえよう

この10行キーワードの頭文字を上から下に読みつなぎ頭韻をふんでみると、もうひとつのキーワードに至る。

「あ・り・き・た・り・を・こ・え・よ・う」

近代社会は、人間と自然、人と雨、と世界を二分化し、雨を流し捨てる「人工的世界」を造り、雨を人間にとって疎遠なものに追いやった。その結果、「利便性」と「物理的な富」は獲得したが、地球環境の持続が危うくなり、人間も荒んだ心情が広がる閉塞社会が「ありきたり」となった。しかし、水資源としての雨を活かすことによって、人間と環境と技術の間に共生的バランスのある「環境親和型社会」を実現しうる可能性が垣間みえてきた。「ありきたりをこえよう」の意はそこにある。

「ありきたりをこえよう」即ち、高度に発達した技術管理社会では手段が目的化し、雨水を下水道や海に流すことが「ありきたり」となっているが、地球から地域まで環境の生命を守り育み、人間と環境が幸せを分かちあう本来的目標を想起し位置づけてみよう。そのためには「ありきたりをこえて」、雨水を中心にしながら「参加と協働による環境親和型社会」づくりをすすめ、地域からの多様な主体の小さな想像力・創造力あふれるアイディア・手法・活動を集め、相互に学びあいながら、「グレー・インフラ」から「グリーン・インフラ」への行程を遊び心をもって楽しみながら進めていこう!

そのような方向感が参加者間に分かちあわれたことをここに記し、大会宣言とする。

2015年9月

雨の水みちツアー

雨の水みちツアー
「長久手里山湧水めぐり」

武田 美恵（愛知工業大学）

「長久手里山湧水めぐり」は、平成２７年８月２３日日曜日１０：００～１２：００、参加費 2,000 円で実施した。参加者は一般市民及び行政関係者、計１０名であった。コースは地球市民交流センター発＝ライスセンター（バス降車）～長久手市熊張地区　沢・棚田～掘り抜き井戸の自噴する湧水を利用して暮らす家々を巡る～ライスセンター（バス乗車）＝地球市民交流センター着（＝バス移動、～徒歩）である。

愛知県長久手市熊張集落には、地下深度 40 ～ 100m の「掘り抜き井戸」から自噴する地下水を生活用水に、大草丘陵の雑木林からしみ出る湧水を田畑に利用する農村的な暮らし文化が今も残る。自噴水は猿投山が水源とされ、年間を通して水温は約 16℃を保ち、夏は冷たく冬は温かく感じられる。

親密なコミュニティが失われつつある現代社会において、困った時はお互い様という思いやり、お裾分けすることが当たり前というおおらかさが路地に点在する湧水口の形に現れており、参加者はその発見と水の冷たさを楽しんだ。２軒のお宅で語られた湧水の利用方法は、飲み水、料理、野菜や飲み物の冷却、水冷式クーラー、洗濯、風呂等生活に関わるもの 100% である。梨と冷やしきゅうりのおもてなしを受け、こんこんと湧き出す豊富な水量に感嘆しつつ、美味しくまろやかな天然水で喉を潤した。非日常的な体験から未来に繋ぐ里山の保全に役立つ何かをそれぞれに学びとってくれたであろう。

湧水めぐり順路及びコミュニティ関係図（鵜飼、2012に追記）

杁ノ洞池の湧水を利用する棚田と水路の仕組み

湧水を愛用する暮らしぶりに耳を傾ける参加者

美味しい湧水をいただき豊かさに感嘆

雨の水みちツアー
「水源の森探索」

浜口 祐子（もりの学舎自然学校）
神谷　博（水みちデザイナー）

愛・地球博記念公園には里山の自然が詰まっています。水源の森は“雨の旅”の出発点です。湧水が小さな流れとなり、ため池に入り、川として流れ出し、庄内川を経て海に至ります。

この敷地は、かつて里山として、薪炭林、陶土採取地、農地として利用され、万博の際には、“海上の森の保全”をめぐり、議論が行われました。現在は万博の時の建物はほとんどなくなり、記念公園として生まれ変わりました。公園内には、里山の自然を活かした「あいちサトラボ」を新設、公園外のエリアには保全研究のための「水源の森」もあります。愛・地球博記念公園には、こうした見どころが沢山あり、目の前で、「雨の水みち」を辿ることができるのです。ということで、『丘陵と里山の自然を探ろう！』をテーマにレッツゴー!!

①「地球市民交流センター」から「親林楽園」

出発前に、愛知工業大学武田研究室の展示パネルで「水源の森」でどんな研究が行われているか予備学習。少し歩いて、「大芝生広場」から「あいちサトラボ」を見渡すと、そこは万博時パビリオンが沢山建っていた所。瓦礫だらけだったところも、今では市民が園内のドングリを育てて植えた森が立派に育ちつつありました。

②「親林楽園」から「もりの学舎（まなびや）フィールド」

かつての里山の中へ。「林床花園」として万博の際に整備されたバリアフリーのデッキ道が残っており、樹幹を目前に見下ろすことができます。「特徴のあるこのはっぱ、何の木かな？」と質問。答えは“フモトミズナラ”、「実は万博の時には“モンゴリナラ”と教えていたんですよ・・・」10年も経つと、名前まで変わってしまうのですね。

そして「もりの学舎」へ。ここは万博の際、日本初のインタープリター付自然ガイドを行った場所。コース内にある休憩説明施設や神谷が設計に携わった「光小屋」「水小屋」「森小屋」は、ほぼ当時のまま残され、今も自然ガイドツアーで利用しています。万博当初のこれら施設群のコンセプトは、現場の小さな看板にある質問とインタープリターさんの答えによって引き継がれています。

③「水源の森」

そしてハイライトの「水源の森」。普段は入れないエリアですが、少しだけ入ることができました。そこは今も自然の営みが残されており、貴重な生き物たちが生息しています。雨の少ない時期で、水量は少なかったのですが、食虫植物の希少種“トウカイコモウセンゴケ”の群落もありました。なんと、極小の可憐な花が咲いているではありませんか。そこは15年前の東海豪雨の際にできた崩壊地で、攪乱後の自然の回復力をまざまざと見ることができ、実生の若い松が周辺と際立っていました。

④「亀の池トレイル」

最後は、水源の森の流れを辿って、昔の溜め池に至りました。池の上流部には万博後に木道がつくられ、良い自然観察の場となっています。そこからは青や緑に輝くチョウトンボを見ることができました。ラッキー!!そして、もりの学舎に到着して、まとめをしました。

参加者の皆さんの感想は、

- 水がきれいで感動。道（トレイル）の整備よかった。
- 近くに住んでいる。水が近くにあるので安心。
- フィールドが広くてうらやましい。昔の事を知っている人がいるうちに記録を。これから、いろんなトライができると思う。
- 生物がいっぱいでよい。光の小屋、10年後に訪れたい。
- 自然を残すのはよいこと。すばらしい。
- 長く愛される為に、どんなことができるか、考えていかなければ。
- 神谷さんの仕事が見られてよかった。万博は物議をかもしたが、結果よかった。
- 森が育ちすぎている気がした。

皆様、暑さの中、ご参加いただきありがとうございました。万博の振り返りと、今後へのヒントがたくさん得られたツアーでした。

展示ほか

展示（ブース展示・ポスター展示）について

大影 佳史（実行委員）

大会開催期間の8月22日、23日両日にわたり、会場となる地球市民交流センターの屋内広場において、雨水活用関連製品や水循環、環境保全等に関する展示（ブース展示・ポスター展示）が行われた。

出展は、ブース展示13団体、ポスター展示15団体であった。出展者は下表のとおり。雨水活用関連製品を扱う企業や、水循環、環境保全等に関するNPO、市民活動団体、自治体等行政団体、ものづくりやアート、大学関係など、多種多様な出展者が集い、雨をテーマに含んだ様々な観点、内容の展示、実演がなされ賑わった。いずれも雨水への関心や取り組みの広がりを感じさせるものであった。今後のさらなる広がりに繋がってゆけばと思う。

展示団体一覧

ブース展示

企業・団体名
NPO法人 雨水市民の会
名古屋市 環境局
雨水利用事業者の会
(株)川本製作所
グローベン(株)
コダマ樹脂工業(株)
(株)三栄水栓製作所
(株)ヴァロリス・デポ
ライオン(株)
team331　名古屋ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｱｰﾄ専門学校
名畑 雅彦　（名古屋弁お言葉作家）
組手什おかげまわし東海
多治見 正勝（家具工房 華）

ポスター展示

企業・団体名
雨水ネットワーク会議
長久手市
全国都市緑化あいちフェア実行委員会
豊田市矢作川研究所
愛知工業大学 武田研究室
関西大学 大影研究室（2015 ～）
名城大学 大影研究室（～ 2015）
日本雨水資源化システム学会
日本建築学会雨水活用推進小委員会
雑木林研究会
タキロン(株)
パナソニック(株) エコソリューションズ社
なごや環境大学
にっしん市民環境ネット
雨水楽舎

催事空間への想い

緒方 隆文（実行委員）

「縁」あって…

２月下旬にお誘いがあり、RNJ実行委員会に参加する事と成った。…「雨水」というテーマ。

万博から10年目と言う区切りの年にまた「環境」をテーマにした催事に関わる事に成るとは、思いも依らなかった。

第1回目の会議で出た、今回の大会のキーワード「雨　楽　美　緑」を４つのグリッドに納めてデザイン化（図案化）する事を拝命。次回会議に図案を持ち込む事と成る。

会議の翌日、思う所あって組手什おかげまわし東海の長坂さんの所へ伺う。と…其所で偶然、名畑雅彦さんという作家に出会う。名畑氏とも15年来のおつきあいがある。昨日の会議の件を雑談、突然、名畑氏が「その字、書かせてくれんか？」との申し出。一も二もなく御願いした。名畑さんに書いて頂いたシンボルロゴを持ってデザインの上田明奈とともに3月の実行委員会へ。

大会会長を受けて下さった延藤先生が会議に参加され鮮やかに大会のキーワードが「雨　恵　緑　情」に修正、まとめ上げられる。

ココから全てのクリエイティブがスタートした。催事、催事空間そして印刷物などのデザインは、大切なコンセプトとともに歩みを始める。

雨は恵と緑と情をはぐくむ

～ものづくり愛知の忘れ物 雨水 里山 環（わ）の心～

催事空間は大切な「情」をはぐくむ装置である。その思いを形にしたい。

当日のモリコロパークという会場での出来事を想像しながら催事空間を考え始めている。実行委員会の会議と平行した日々の業務の合間にも頭の中にコンセプトが貼り付いている。様々な催事アイディアが浮かんでは、また意識の底に沈んで行く、アイディアの閃きが時間とともに身になっていく。ほぼ同時期に今回の催事空間を作って下さったお二人に出会った。野々山ちさとさん、多治見正勝さん。

野々山さんにはイラストレーターズクラブの展覧会で作品に出会い、多治見さんには「木の椅子展」という展覧会で、作品とご本人に。作品のニュアンスから今回の催事にぴったりの人材だと確信し、何らかの参加を考える。

野々山さんは学生達の為に作品を一つ買い、その後、他の展覧会の案内を頂く、その展覧会で作品を改めて拝見し、今回の会場の構想を相談する。「光」を感じさせて欲しい事を伝えた。

多治見さんは工房に伺い、これまでの作品を拝見。鳥のモビールを50点ほどお持ちだった。「風」を感じさせて欲しい。風とともに変わる時間を伝えたい。

別々に出会い、ある日の出来事に形づくられていくお二人のクリエイテビティ。わずか２日間だけの「催事空間」がこうして出来上がる。

残念な事に私はその時間を共有する事はなかったけれど、予想を上回る結晶となった事であろう。

森さん，神谷さん、大西さん、眞弓さん、服部さん、長坂さん、延藤先生。実行委員会のメンバーのみなさん。名畑さん、多治見さん、野々山さん、NCAの学生達。みなさんの全てが催事を作って行く。

実行委員会のみなさん、今回の催事に関わられたみなさん。別々の時間を一時に集めて、縁を結び、全てが「情」をはぐくむ催事空間になったと思う。

最終の会議で延藤先生が今回を「ありきたりをこえよう」と纏められたと知った。

参加されたメンバーがお互いに触発され「ありきたり」を超えて出来事時間を作ったのだと思われた。そして最後に「名畑　雅彦」氏の出番を作って下さった大会会長のクリエイティブには感服した。私の一番の気がかりでもあった。

まだ、語り尽くせない何かが、私の中に残ったままである。

Impressions of 8th RNJ in Aichi

会場の設営、大会の運営のお手伝いを頂いた「名古屋コミュニケーションアート専門学校（NCA）」のみなさんに大会のついての印象や感想をお聞きしました。

RNJに参加できた事は貴重な体験でした。野々山さん、多治見さんの設営とワークショップの責任者をやらさせてもらいました。初日、カラフルなステンドグラスモビールが装飾されていくバトンを観てどんな感じになるのだろうとすごいワクワクでした。

完成したバトンはスゴくキレイで感動しました。教室の装飾も後輩と一緒に取り組みました。

大会初日、お客様が少なく呼び込みをするお客さんも居ないほど。作家さんと話していましたが、チラシがもっと楽しげで事前の宣伝があるともっと良かったのでは。との事でした。

二日目は朝、現場入りすると教室が使えないとのことで、急遽、他の教室を用意してもらい一から装飾し直しました。何とか開始時間に間に合いましたが、事前の確認が欲しかったと思いました。

広場の装飾が好評で、次のイベントでも飾って欲しいと聞き、自分の事の様に嬉しかったです。

このイベントで責任者を任され、みんなにスゴい迷惑も掛けてしまいましたし、足らない事ばかりで途中で何度も厭になりましたが、最後までやりきって本当に良かったです。

現場の方々はみんな優しくて、沢山の人に助けてもらいながら楽しく３日間を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。

（植田 夕貴　NCA雑貨デザイン専攻）

色々なプロジェクトをやってきて今回、夏休み終盤でこのような大きなイベントに参加する事は初めてで最初は戸惑いました。

初日は設営で、舞台組立、車の搬入、各部屋の机イスなどの備品の配置を任され、会場全体のモノの配置を行いました。自分たちのブースも出し、本番を迎えました。

お客様が少なく大変集客に苦労をしました。想像以上だったのでブースの参加費も芳しく無く少し残念な結果になりましたが、少ないながらも来て頂いたお客様に接客し、子どもたちが楽しそうにゲームに参加する様子にこの企画を作った私たちもすごく嬉しい気持ちになりました。

このプロジェクトを通して、みんなが楽しめてお客様も楽しめる空間を作れた事が学びになりました。企画する事で自分自身のこれからのプロジェクトに活かして行きたいと思います。このイベントはすごく楽しい思い出に成りました。

（上濱 友基　NCAインテリアデザイン専攻）

シンボルロゴの制作から関わった。少し早くから関わる事で馴染みが無かった「雨水利用」のこと、会場となるモリコロパークについて理解をして当日を迎えられたと思う。
シンボルロゴは「雨　恵　緑　情」の後ろにそれぞれ写真を組み合わせたのが好評だったと思う。題字を書いた名畑さんにも気に入って頂けた。
当日は予想以上に来場者が少なかった。22日は天気が不安定だった事もあると思う。
自分たちのブースに来てくれた人たちとはちゃんとコミュニケーションもとれて、商品も気に入ってくれた。名畑さんのワークショップは、竹の根っこを削った筆で文字を書く楽しさを感じてもらえた。書き方、筆の使い方を参加者と一緒に考えたり、また色々な話も出来て楽しい時間を過ごせました。

（上田 明奈　NCAインテリアデザイン専攻）

雨は恵と緑と情をはぐくむ…
まさにその言葉通りのイベントだった。
初日の午前は雨にみまわれ、午後と翌日は八月らしい陽気。
風に乗って綿毛が舞って、幼い姉妹が初めて見るハンモックにはしゃいでいた。

今回私はバトン部分の設営と自分たちのブースを主に担当した。初日、「バトン」がどう言うものかも分からず、不安もあったが装飾の終ったそれを見てお客様が口々に綺麗言っているのを見て思わず相槌を打ちたくなる。
運営に携わり、催事の流れを近くで見る事で、組織活動の良いところ、改善点をしっかり見つける事ができ、これは自分にとって大きなプラスになると感じた。

（佐藤 亜可音　NCA雑貨デザイン専攻）

今回、仲間と一緒に「てるてるぼうず」に因んだワークショップを行いました。
内容は「明日天気になぁあれ」と願いを込めながらカエル型の的にてるてる坊主をなげるという遊びです。
おじいちゃんと男の子がこの遊びに挑戦し、おじいちゃんに「あの的をねらうんだ！」とサポートされながら一生懸命に投げる男の子を見て嬉しい気持ちになりました。
私たちが考えた遊びが、幼い子どもたちだけではなく大人も一緒に楽しんでる様子を見て、大人が童心に帰る遊びでもあるのかな、と思いました。
幅広い方々に、参加して頂けて良かったと思います。

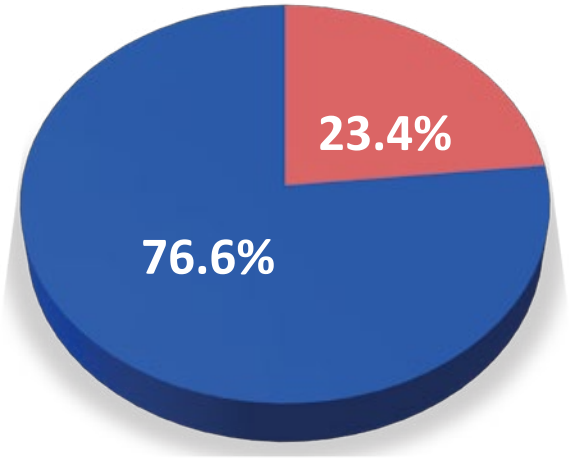
（大沢 有奈　NCA雑貨デザイン専攻）

みなさん、ご協力ありがとうございました。

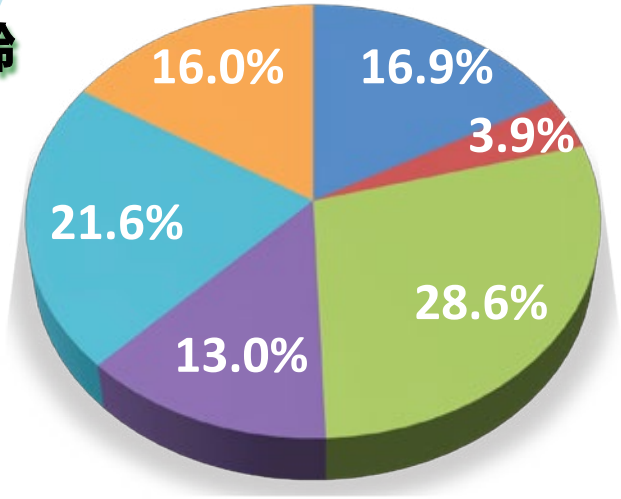
第８回 雨水ネットワーク会議全国大会 2015 in 愛知　参加者データ

参加者総数：２３１名（登壇者・実行委員含）
２１日：　８５名
２２日：　９８名
２３日：　４８名

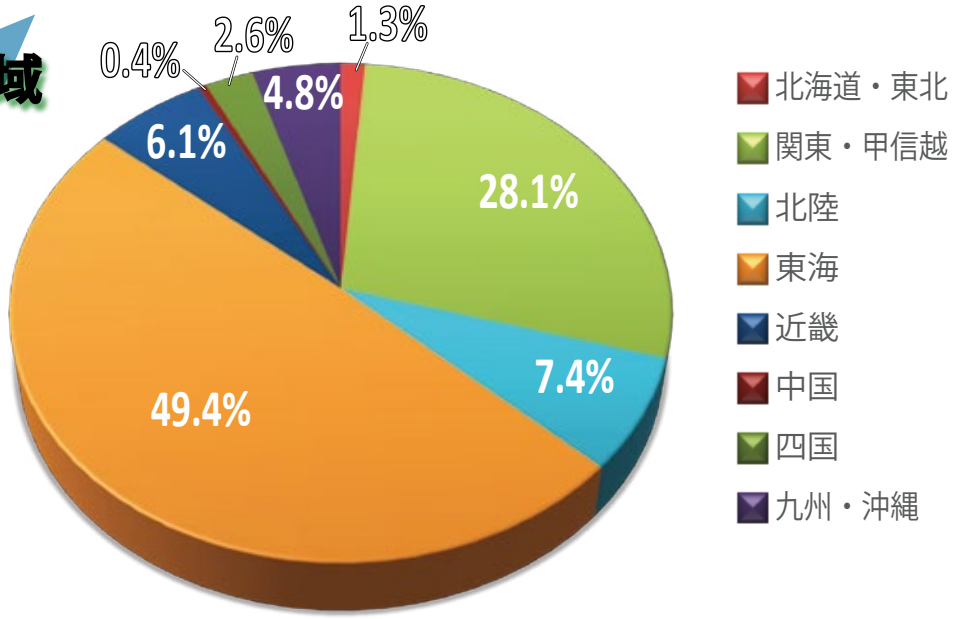
性　別



年　齢



地　域



広　告

今日を愛する。
LION

雨水を活かす、私たちの活動。

「洗うこと」を通じて常に水と深い関わりを
持ってきたライオンだから、
大切な資源である雨水を有効活用するために
さまざまな取り組みを行っています。

「あめぼうとあまつぶ」が、
ライオンの
雨水普及支援活動を
ご紹介します！

こんな活動をしているんだ！

雨水利用普及を目指す
「雨水ネットワーク会議」の運営を支援。

「雨水タンク」を石巻市に寄贈し、
湊こども園に設置

大阪市福島区のすべての市立幼稚園・
市立小学校へ雨水タンクを寄贈。

雨活（あめかつ）
アイデアコンテスト2015を実施。

ライオン株式会社
ライオン　雨の恵みひろば　検索

「あめぼうとあまつぶ」はライオンのオリジナルキャラクターです。

雨水を貯水して有効活用

雨水利用装置 カワ太郎［TAR形・TARZ2形］

きれいな雨水だけを集め貴重な生活用水に。

特 長

- 給水ポンプ標準装備（組合せポンプが選べます）
- 独自開発のセパレータでゴミ、ホコリを自動的に除去
- 貯水槽は腐食のない樹脂製で常に清潔
- 上水併用方式で通常時は散水などに利用可能

■標準付属品

- セパレータ（調整用排水コマ付）
- 貯水槽
  （ボールタップ・ポンプ×貯水槽取付セット・ポンプ空転防止用フロートスイッチ）
- 給水ポンプ（NF2-K形・N3-N形）

地上設置型［TAR形］

ユニットタイプで取り付けは
簡単スピーディー。

- TAR-30
- TAR-30-B（架台付）
- TAR-50
- TAR-50-B（架台付）

ちきゅうにやさしい
雨水貯留槽
エコマーク認定No.09137004
（埋設型除く）

写真はTAR－Bタイプです。

埋設型［TARZ2形］

土地の有効利用が可能。
耐荷重マンホールで
車庫内の設置可能。
（耐荷重工事が必要です）

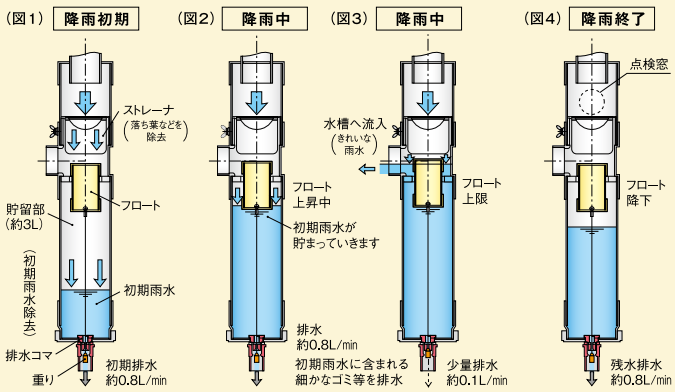
- TARZ2-70
- TARZ2-110

セパレータ

降り始めの雨水に含まれるゴミやチリを自動排出、きれいな雨水だけを貯めます。（定期的にストレーナを清掃してください。）

PAT.

セパレータ（初期雨水除去装置）の作動説明



図は、雨の降り始めから、雨が止むまでのセパレータの水位、フロート、重りの動きを示したものです。

1. 雨が降り始めると、貯溜部に、初期雨水が溜まり、満タンになると貯水槽にきれいな雨水が貯水される仕組みです。（図1・2）
2. 貯溜部が満タンになるとフロートが上昇し、排水コマと重りの動きで排水量が減少し、雨が降り続く間、きれいな水が効率的に貯水されます。（図3）
   （微量の排水は常時あります）
3. 雨が止むと、貯溜部に残った雨水は徐々に排水されて空になり、次の降雨に備えます。（図4）
   （注）排水コマ（標準穴径φ4）の交換（穴径φ3）で排水量の調整ができます。

大切な「水」をあなたへ
川本ポンプ

地中埋設型雨水貯留タンク
アンダータンク

- 質の良い水が使用出来るように、４段階のろ過システムを内蔵。
- 驚きの薄型タンクで掘削量が削減出来ます。
- 配管接続部分がすべて上部にあり、工期短縮可能。
- 貯水量は 1500ℓ、3000ℓ、5000ℓの3タイプ。
- 用途に応じてガーデンセットとパーキングセットが選べます。
- オプションで自動散水との組合せも可能。

アンダータンクの特長

軽量＆コンパクト
軽量な上コンパクトな
サイズで工期短縮。

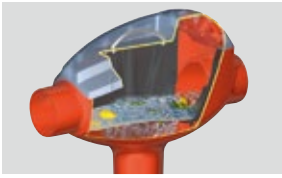
ガーデン or パーキング
設置場所に応じて庭向け、
駐車場向けの２種をご用意。

土地の有効活用
タンクは地中に埋設して敷地を
有効活用。※1500Ｌタイプ

自動散水オプション
追加オプションで自動散水の
システムをご提案致します。

４段階の『ろ過システム』

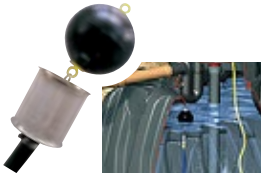
内蔵フィルター
雨水をメッシュフィルターでろ過し、
タンク内に落葉や木の枝が入るのを
防ぎます。



上向き流入口
タンクの底に沈澱している砂などが、
水流によって巻き上げられるのを防止、
水が濁りにくくなっています。

オーバーフロー排水
水より比重の軽い表面部分の浮遊物を
オーバーフローによって排水し、
不純物を取り除きます。

一定水位での給水
内蔵されたフロートが常に水面よりも
10センチ程度下の水を抽出します。



ガーデンセットの施工手順

1：土の掘削

2：タンク設置

3：配管後、土の埋め戻し

4：完　成

地上設置型雨水貯留タンク

実用性を考慮した容量とスタイリッシュな
デザインが特長のタンクです。

スリムタンク	サイズ／H1820×W580×D370 重量／約16kg（満水時約316kg）

メッシュタンク	サイズ／H1190×W760×D400 重量／約16kg（満水時約316kg）

ウッディタンク	サイズ／H985×W1210×D385 重量／約40kg（満水時約390kg）

雨利水（あまりみず）システム　カタログ

雨水の再利用に関する資材を
掲載した専用カタログです。
最新カタログをご希望の方は
右記までご請求下さい。

グローベン株式会社

本　　社／〒455-0025 名古屋市港区本星崎町字南3998-31
TEL（052）829-0800 FAX（052）829-0801

関東営業所／〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町1-6-13 KHビル1階
TEL（03）5829-9511 FAX（03）5829-9523

関西営業所／〒666-0016 兵庫県川西市中央町18番26号
TEL（072）755-8075 FAX（072）755-8077

商品センター／〒455-0025 名古屋市港区本星崎町字南3998-31
TEL（052）619-6788 FAX（052）619-6786

Solar Automatic Watering System

Irrigatia
イリゲシア

The weather responsive SMART irrigation controller

ソーラーパワーで自動かん水。雨水タンクとの併用で賢く水やり

Ideal for small to medium gardens, and can be used for pots, raised beds, hanging baskets, vegetables and greenhouses.
Using solar power to pump feed and water from your water barrel.
Easy to install and set up.

イリゲシアの自動かん水キットは、
小さなお庭から中規模のお庭にピッタリ。
植木鉢やレイズドベッド、ハンギングバスケットや
野菜栽培、温室での利用にも最適です。

ソーラーパワーを利用して、雨水タンクの水を
ポンプで吸い上げ水やりします。

取付設定はとても簡単。

USES UP TO 90% LESS WATER THAN A HOSE

元気な野菜を育てます

フラワーポットに最適

取付簡単!手間いらず

- The more sun, the more it waters – waters every 3 hrs
  必要な時に必要なだけ…3時間毎の自動灌水
- Saves plants from drought and waters when on holiday
  植物を乾燥から救い、外出中も自動で水やり
- Automatic watering for up to 5 large hanging baskets or 12 x 20 litre pots
  大きめポットで5個、20Lポットなら12個程度までOK
- Drip waters up to 5m above the water source
  水源から5mの高さまでOK
- Uses up to 90% less water than a hose
  ホースでの水やりと比べおよそ90%節約
- Easy, Eco, Efficient
  簡単、エコ、効率的
- Water source to solar pump – maximum 20m
  水源からソーラーポンプまで最長20m
- Water source to last dripper – maximum 60m
  水源から最も遠いドリッパーは60mまでOK

■お求めは下記のホームページよりお願いします。
http://www.nissei-web.co.jp/item/986.html

雨水タンクをはじめエコロジー商品の
品揃え日本最大級
ECOSHOP 節水村

■お電話でもご注文いただけます。
0770-72-5152（AM8:00～PM5:00）

■輸入元
株式会社ヴァロリス・デポ
愛知県長久手市上川原21-2 tel.0561-61-5557
info@vall.co.jp

事業内容

- ○UVコールドフォイル印刷
- ○UVホログラム転写印刷
- ○UVコーター付オフセット印刷
- ○一般オフセット印刷
- ○3D印刷
- ○バリアブル(可変データ)印刷
- ○Mac･Win･DTPデータ作成
- ○B倍プロッター出力

鬼頭印刷株式会社
〒456-0073 名古屋市熱田区千代田町3-22

Tel.052-681-1701 Fax.052-679-1171
data@kito-net.com www.kito-net.com

地球は水の惑星

命(いのち)につながる水(みず)を大切(たいせつ)に

APiTA ピアゴ

**ユニーは環境学習をとおして、水の大切さや、使った水を
できるだけ汚さないで自然に還すことを子ども達に伝えています。**

私達は水道の蛇口をひねればきれいな水が出てくることに、何の疑問ももちません。
水が無ければ私達は生きていくことができません。毎日の生活の中で使う水を大切に使いましょう。

白川郷で水車で水力発電、水素電池自動車の実験

eco博：水の展示と夏休み自由研究応援隊の展示
（アピタ店舗に設置）

雨水利用タンク

ホームダム

自然のめぐみ雨水をもっと活かして使いましょう!!

庭の草、花、木への水やり、洗車、打ち水など
まだまだたくさん活用できます。

RWT-110

RWT-250

コダマ樹脂工業株式会社

本　　社　〒503-2393 岐阜県安八郡神戸町末守377-1　TEL<0584>27-4141
本社営業部　〒503-2393 岐阜県安八郡神戸町末守377-1　TEL<0584>27-5055
東京支店　〒104-0031 東京都中央区京橋1-16-10（オークビル京橋）　TEL<03>3564-5266
大阪支店　〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田2丁目5番2号（新サンケイビル7階）　TEL<06>6341-0015
本社工場・横井工場・熊本工場・栃木工場・池田工場　　ホームページ：http://www.d-kjk.co.jp/

「うるおいのある都市」をめざして・・・
期待される雨水貯留浸透技術

都市河川の氾濫を防止します

潤いと水辺景観を創出します

雨水を大地に還元します

雨水を活用します

ARSIT 公益社団法人 雨水貯留浸透技術協会

〒102-0083
東京都千代田区麹町3丁目7番地1号（半蔵門村山ビル1階）
電　話　(03)5275-9591(代)　　FAX　(03)5275-9594
ホームページ　　http://www.arsit.or.jp

こんなことは雨水利用事業者の会にご相談。

「雨水利用設備を導入したい。」「設置工事について教えて。」

地上設置型雨水タンク・地下埋設型雨水タンク・雨水取水装置・フィルター
ポンプ・灌水装置・設置工事・雨水利用コンサルティング・ほか

http://amamizu-pro.net

公共施設で多数採用
「雨水コレクター」

自然素材の雨水タンク
「樽 200 年」

「雨音くん 120L」
住宅の外観にマッチするデザイン

「アメマルシェ」
奥行 350 ㎜のスマートなデザイン

ステンレス雨水タンク
「レインバンク」

地上設置型「ＫＡＷＡ太郎」

「ミニダム」場所を取らない 200 ℓ タイプ
渇水時にも安心 1000 ℓ タイプ

国産杉の雨水タンク「雨びつ」
と「雨びつ自動灌水装置」

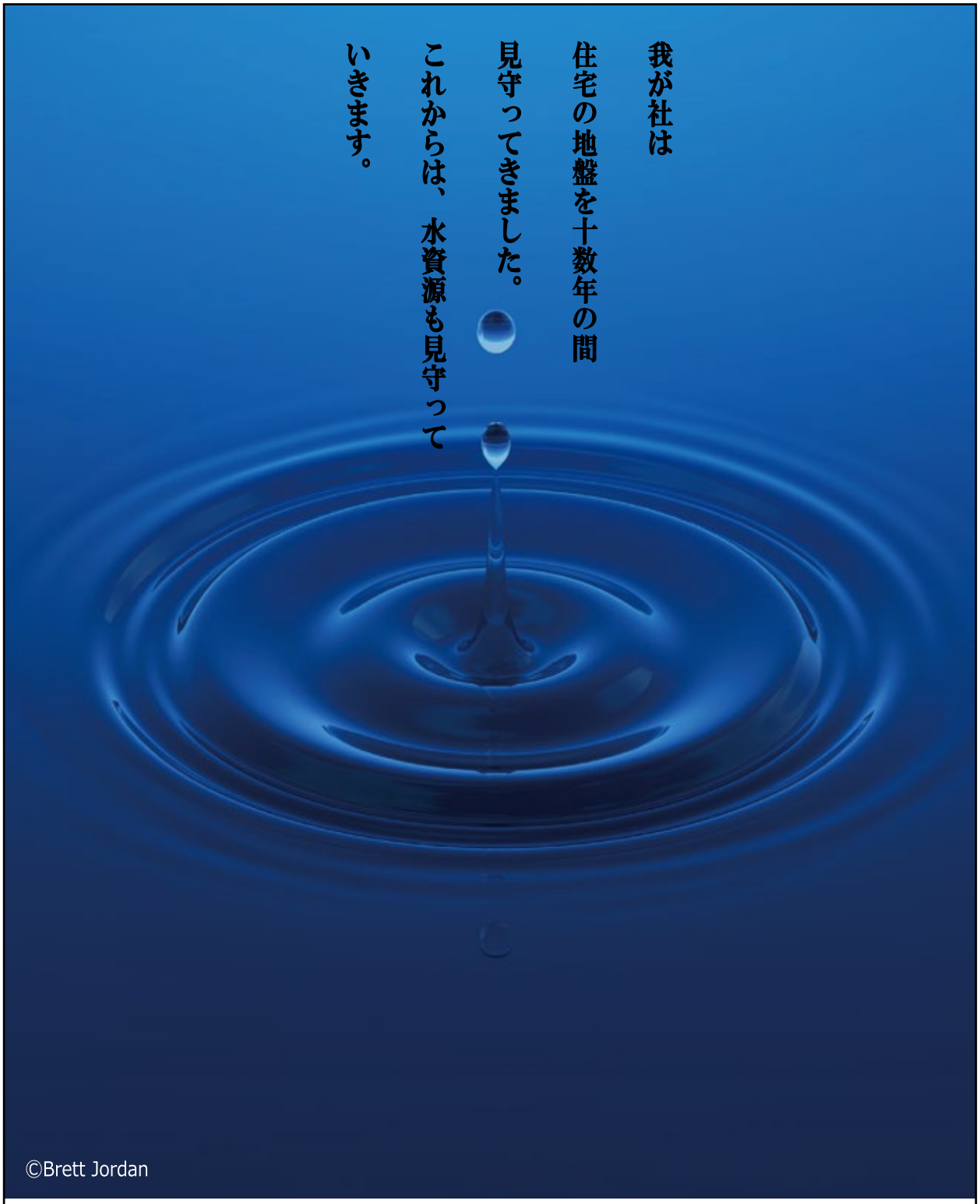
「防災王」雨水貯留飲用水造水装置

トーテツで一番人気のある雨水タンク

「雨水くん」A 型 200 ℓ
管理楽で、水位計と散水ホース付

雨水利用事業者の会は「雨水ネットワーク会議」を応援します。

有限会社 安藤電気製作所　有限会社 風大地プロダクツ　株式会社 川本製作所　紀和工業株式会社　サンエービルドシステム株式会社
シップスレインワールド株式会社　タキロン株式会社　株式会社 タニタハウジングウェア　株式会社 トーテツ



地盤の専門家　株式会社サムシング

SOME THING

JASDAQ
ジャスダック上場
サムシンググループ

雨水ますの機能改善工事

雨水貯留・浸透設備計画立案・設計・施工

既存法面の排水促進化工事

【お問い合わせ先】
東京都江東区木場 1-5-25　深川ギャザリアタワー S 棟 4 階
TEL:03-5665-0844　　FAX：03-5606-7766
【担当】神村・田部井

今日を支える、明日を変える。 タキロン

『雨水のコントロールで、豊かで安全な住環境を創造できる雨水関連製品』

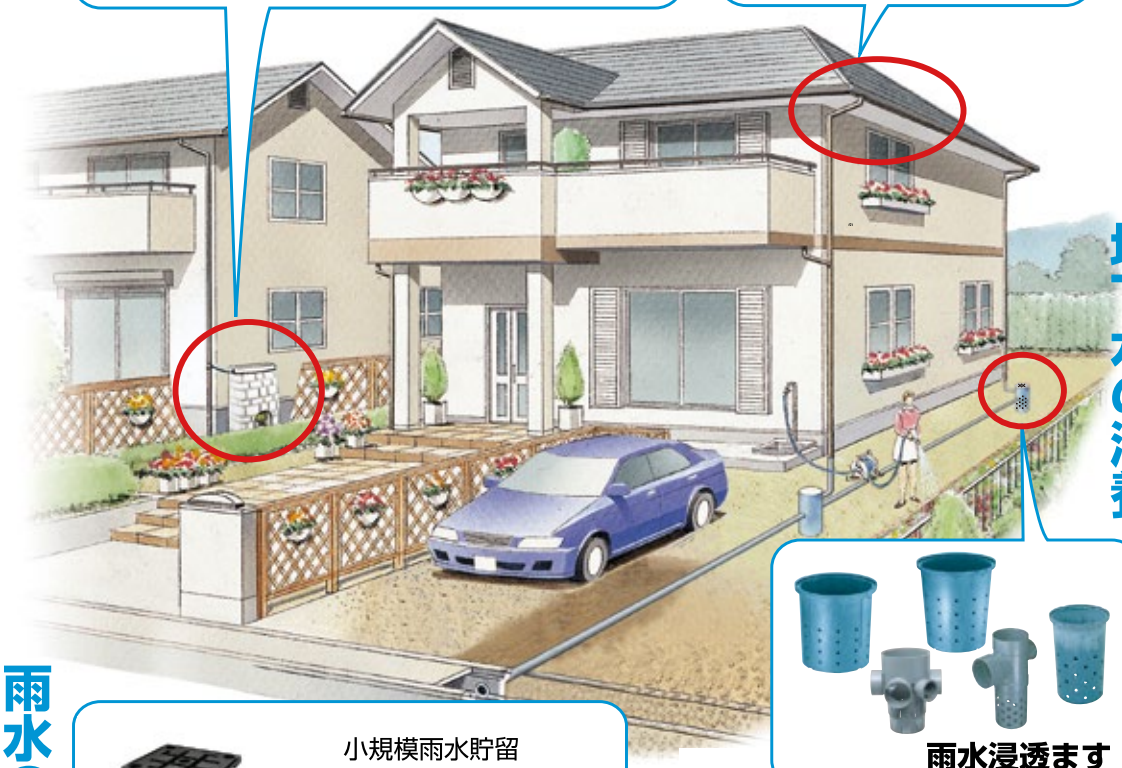
雨水の利用

庭の草花や家庭菜園への水やりに、水道水を使わずに雨どいから集めた雨水を利用すれば、水道料金・下水道料金の節約になります。各自治体でも設置に対し補助金制度を整備するところが増えてまいりました。詳しくはお住まいの自治体にご確認ください。

雨水貯留タンク **雨音くん・アメマルシェ**

雨水の集水

サイホン雨どいシステム
ジェットライン



地下水の涵養

雨水浸透ます

雨水の流出抑制

小規模雨水貯留
浸透槽用貯留材
レインセーブ N

雨水を地下空間に一時的に貯留し河川への急激な流入を抑制する技術、地下に浸透させることで土壌の保水性を改善し、地下水を涵養する技術。このような都市環境の潤いを創出するための水循環技術が、今注目されています。

タキロン株式会社 http://www.takiron.co.jp

■製品に関するお問い合わせ・ご相談は

お客様相談センター

0120 携帯・PHS OK **0120-877-115** (受付時間 平日 9:00〜17:00) ※土・日・祝日・年末年始・お盆は休みをいただいております。

住設資材事業部 〒108-6031 東京都港区港南2-15-1（品川インターシティA棟） ☎(03)6711-3714 FAX(03)6711-3718

タニタハウジングウェアは、「雨水ネットワーク会議」の活動を応援します。

雨のみちをデザインする
株式会社タニタハウジングウェア
http://www.tanita-hw.co.jp 0120-011-849

plaspool プラスプール®工法

プラスチック製雨水利用槽

有効貯留量　5m³（標準規格品）様々な規格に対応可能

駐車場の下にも設置可能な地下埋設型の雨水利用タンク！

雨水を使ってエコな環境を実現！

- **機能性及び強度**
  本体部材にはプラダムくんと同様の製品を採用
  ー空隙率95%以上を確保
  ー上載荷重T-25対応
  ー レベル2地震動に対する性能照査実施
- **施工性**
  標準規格品は工場組立て製品のため施工が簡単

浸透トレンチ型プラスチック製雨水貯留浸透施設

ニュートレンチくん

新技術情報提供システム『NETIS』登録製品
NETIS番号：KT-130092-A

- 空隙率95%
- 1個あたり5.6kgで人力施工が可能
- 施設内部に通水管を内蔵
- 配管施設として設置可能
- 移送管を内蔵、施設内部の清掃が可能
- 上載荷重T-25対応で、駐車場下の設置可能

プラスチック製雨水貯留浸透槽

プラダムくん

- 空隙率95%
- 1個あたり6.8kgで人力施工が可能
- 組立簡単、工期短縮
- 地下埋設型のため、上部利用が可能
- T-25 対応で、駐車場の下にも設置可能

秩父ケミカル株式会社
ホームページ　http://www.titibu.co.jp

本社　東京都千代田区外神田5-2-3　JR外神田ビル
TEL　03-3832-1617
FAX　03-3832-1681

ECOSHOP 節水村

雨水タンクの品揃え日本最大!
http://www.nissei-web.co.jp/

雨水タンク写真展開催中!

雨人（あまびと）大集合!

オシャレにそしてたのしく雨水活用をされているお客様の
雨水タンクのお写真をご紹介しています。
こんな素敵な雨水活用を独り占めしてはもったいない！
1人でも多くの方に雨水活用のすばらさを実感していただきたい！
そんな思いで「雨水タンク写真展」を企画しました。
どの雨水タンクにしようかお悩みの方も必見です♪

雨水タンクの助成金サポート完備!
雨水の活用法として水耕栽培キットも絶賛販売中です!

お電話でもご注文承ります!　☎ 0770-72-5152

雨水利用システム等の上水補給時の
逆流防止・吐水口空間の確保の為に

利用水槽の上水補給時
の逆流防護に最適です。

環境配慮型
エコタイプ

KKK
減圧式逆流防止器
CX（低圧損型）／BX（標準型）

model BX/CX
排水ノズル・ホッパーセット付

model FWH-S

利用水槽の上水補給時の
水位調整及び吐水口空間の
確保が出来ます。

KKK
ボールタップ
形式：FWH

ECO CLEAN

KKK 兼工業株式会社
札幌／仙台／東京／名古屋／大阪／広島／福岡
本社・工場　愛知県小牧市大草2036番地　〒485-0802
TEL　0568-79-2476　　FAX　0568-79-6422
URL http://www.kkkvalve.jp　E-mail domesticsales@kkkvalve.jp

実行委員

延藤 安弘	（大会会長）	NPO法人 まちの縁側育くみ隊 代表理事
森 由紀夫	（実行委員長）	木文化研究所
近藤　朗	（副実行委員長）	愛知・川の会 共同代表、愛知県知立建設事務所 企画調整監
武田 美恵	（副実行委員長）	愛知工業大学 工学部 建築学科 講師
緒方 隆文	（事務局長）	Ogata Planning Associaes
西尾 貞臣	（監事）	NPO法人 こまき市民活動ネットワーク 理事
眞弓 浩二	（監事）	雑木林研究会 事務局長、なごや生物多様性保全活動協議会 会長、 なごやの森づくりパートナーシップ連絡会 事務局
安藤 祐仁		グローベン（株）取締役営業部長
石田 信彦		（有）エコライフクリエイト 代表取締役
上田 明奈	（デザイン担当）	名古屋コミュニケーションアート専門学校 インテリアデザイン専攻
浦田 恵美子		（株）コスモス・エコ研究所 代表取締役
大影 佳史		関西大学 環境都市工学部 建築学科 教授
加納 健一		（公財）愛知県都市整備協会 愛・地球博記念公園管理事務所 企画・調整グループ
小池 敦夫		（公財）名古屋市みどりの協会 事務局長
島川 卓也		（株）ヴァロリス・デポ 代表取締役
高田 典幸		（株）川本製作所 マーケティング部 開発技術課 課長
永江 孝光		（株）川本製作所 マーケティング部 開発技術課
服部 久人		（公財）愛知県都市整備協会　愛・地球博記念公園管理事務所 所長代理
浜口 祐子		NPO法人 もりの学舎自然学校 理事
藤森 幹人		（株）対話計画　代表
溝口 裕太		名古屋大学大学院工学研究科
大西 和也	（会計）	雨水ネットワーク会議世話人会
神谷　博	（アドバイザー）	雨水ネットワーク会議世話人会
粟田 雅貴	（アドバイザー）	全国都市緑化あいちフェア実行委員会 事務局 ＥＰグループ

展示・イベント運営協力

杉野　実	（交流広場全体運営責任者）	M1_Project 代表、なごや環境大学 10周年記念事業プロデューサー
植田 夕貴	（ワークショップ担当責任者）	名古屋コミュニケーションアート専門学校
大沢 有奈	（team 331 責任者）	名古屋コミュニケーションアート専門学校
佐藤 亜可音	（展示担当）	名古屋コミュニケーションアート専門学校
上濱 友基	（全体運営）	名古屋コミュニケーションアート専門学校
谷本 直優	（会場設営）	名古屋コミュニケーションアート専門学校

2015年9月30日　発行

発　　行／雨水ネットワーク会議全国大会in愛知実行委員会
〒471-0024　愛知県豊田市元城町4-19-1 名古庄ビル301 木文化研究所内
E-mail：taikai@rain-net.jp

編集・印刷／鬼頭印刷（株）　http://www.kito-net.com

後援

国土交通省中部地方整備局、環境省中部地方環境事務所、
愛知県、名古屋市、長久手市、瀬戸市、豊田市、犬山市、小牧市、岩倉市、日進市、
公益財団法人愛知県都市整備協会、公益財団法人名古屋市みどりの協会、
公益社団法人日本造園学会中部支部、一般社団法人日本建築学会雨水活用推進小委員会、
日本雨水資源化システム学会、名城大学、特定非営利活動法人日本水フォーラム、
特定非営利活動法人雨水市民の会、雨水ネットワーク東北、関西雨水市民の会、
特定非営利活動法人京都・雨水の会、特定非営利活動法人碧いびわ湖、
あめゆきCafé、雨水楽舎、雨水ネットワーク九州、樋井川流域治水市民会議

協賛

ライオン株式会社、株式会社川本製作所、グローベン株式会社、株式会社ヴァロリス・デポ、
鬼頭印刷株式会社、公益社団法人雨水貯留浸透技術協会、雨水利用事業者の会、
サムシングホールディングス株式会社、タキロン株式会社、株式会社タニタハウジングウェア

（敬称略・順不同）

主催

雨水ネットワーク会議全国大会in愛知実行委員会